

ニューズレター No.20

日本リメディアル教育学会 (JADE)

<http://www.remedial.jp/> 発行人 小野博

2009 (平成 21) 年 5 月 19 日発行

学会員による企画会議

5 月 30 日 (土) に、全国大会の企画や学会の今後について話し合う会議を開催したいと思います。参加して欲しい人は、全国大会で企画や発表を考えている人。学会の今後に関心がある人です。

会場：清泉女子大学 2 号館 3 階 232 教室

<http://www.seisen-u.ac.jp/access.html>

日時：30 日午後 2 時から午後 6 時まで。

奮ってご参加ください。

全国大会の企画セッション

9 月 1, 2 日に千歳科学技術大学で開催される全国大会の企画セッションの概要がまとまりました。

1. 企画セッション紹介：

今回は以下の企画セッションを実施する予定しており、各セッションではシンポジウム、ワークショップ等も企画中です。内容は随時更新していきます。

(1) 自律研究・英語部会セッション

「自律研究・英語部会からの提案：できない学習者の自律を促進するための scaffolding の研究」

(概要)

英語のできない学習者の自律を大きな視野に入れて、日本の学習者の階層の調査とできない学習者の分類の試みとそのような学習者に対する scaffolding の研究についての中間報告をシンポジウムで行う。

(委員)

酒井志延 (司会・英語学習者の階層の研究)

中西千春 (できない学習者の分類)

清田洋一 (動機付けからの scaffolding 研究)

山内真理 (メタ認知からの scaffolding 研究)

間中和歌江 (文法面からの scaffolding 研究)

合田美子 (e-learning からの scaffolding 研究)

(2) 日本語部会セッション「学士課程で必要な語彙理解力の育成のために」

(概要)

日本語力の基礎となる語彙力について様々な角度からアプローチを試み語彙テストである日本語プレースメントテストを大学教育に組み込んでいる事例及び成果について紹介する。

司会：馬場真知子 (東京農工大学)

構成：パネラーによる発表とワークショップ

・ワークショップ

「語彙テストの問えるもの-専門教育への応用へ」

小野澤佳恵 (国際交流基金日本語試験センター)

河住有希子 (早稲田大学)

・シンポジウム

「大学生に必要な語彙力とは」

佐藤尚子 (千葉大学)

「日本語検定試験の分析」

野崎浩成 (愛知教育大学) / 田中佳子 (日本工業大学)

「日本語プレースメントテストの結果の利用事例」

渡辺誠治 (活水女子大学) / 深津睦夫 (皇學館大学)

／田中佳子 (日本工業大学)

(3) 学習支援セッション 「大学教育の新しい可能性 - 学習支援センターをめぐる」

(概要)

多くの大学でさまざまな形でスタートしている「学習支援センター」についての情報を整理し、問題や課題を明らかにし、現在、議論されている「学士力」の養成に、センターがどのような役割を担えるかを中心に、これからの発展の方向性を探る。

(進行)

形式として、司会を谷川、基本報告を小川が行い、他に 3 名程度のシンポジスト (現時点では未定) による討論 (直接いずれかの大学のセンターに関っている人、高等教育研究者、人材問題に詳しい民間企業関係者、を想定)。

(委員)

委員長：小川 洋 (聖学院大学)

委員：谷川 裕稔（四国短期大学）

(4) 産学連携セッション 「リメディアル教育における産学連携のあり方」

(概要)

リメディアル教育も含めた大学生の教育において、企業のもつ技術・ノウハウなどを、大学が有効的に活用した事例を紹介し、産学が相互連携するために必要なことを考える。

(委員)

委員長：杉山康彦（日立製作所）

(5) ICT 活用セッション 「ICT 教材の制作と学習環境の構築」

(概要)

大学生の学力低下は国家的な問題になっている。入学してきた学生の学力の底上げを図る方法に、ICTの活用がある。また、ICT教材不足は深刻な問題である。本セッションでは、ICTを実際に活用したリメディアル教育の実践報告とその効果を探る。

(進行)

一般発表+ワークショップ

1 【一般発表】一般講義室（パソコン演習室である必要はない）各大学における ICT 教材の制作や ICT を活用したリメディアル教育等の実践事例について報告を行う。

2 【ワークショップ】パソコン演習室 千歳科学技術大学の e ラーニングコンテンツ制作における高大連携の具体的なやり取りを会場で再現し、参加者にも体験してもらおう。千歳科学技術大学の先生、学生、高校の先生が集まって、実際に原稿をコンテンツ化するところや検討しているところを見せる。

(委員)

委員長：穂屋下 茂（佐賀大学高等教育開発センター）

委員：佐藤 実（東海大学理学部）

今井順一（千歳科学技術大学）

寺田 貢（福岡大学理学部）

全国大会の自由研究発表

応募資格：

応募者は学会当日までに年会費（過去の未納分を含む）を納めた日本リメディアル教育学会の個人会員であること。連名の場合は、筆頭者が会員であること。なお、今大会のプログラムを通じて、同一人物が筆頭発表者（登壇者）となるのは一名につき一件とさせていただきます。

[3] 応募方法：

ホームページの 大会発表募集フォーム <http://www.remedial.jp/21conference-announce-form.html> にてお申し込みください。記載していただく事項は以下の通りです。

1) 発表区分*：

（「研究発表」「実践報告」「シンポジウム」の区分をお書きください。）*発表区分については応募者の申告に基づきますが、審査結果によっては変更をお願いする場合があります。

2) 分野：

（入学前教育、初年次教育、学習支援、学習スキル、日本語分野、自律研究・英語分野、理数分野、教育システム分野、テスト分野、教育支援員養成、e-learning の利用、その他）

3) 題目

4) 発表者全員の氏名、所属、連絡先

メールアドレスと電話番号

5) 内容の要約

（日本語による発表の場合は 600 字程度まで、英語の場合は 300 語程度まで）

使用機器についてですが、会場では、（パソコン切替器を介した）液晶プロジェクターのみ利用可能です。ノートパソコンは各自でご用意ください（ご相談には応じません）。また、会場からのインターネット接続は別途ご相談ください。

[4] 応募締切：

平成 21 年 6 月 30 日（木） 24 : 00（厳守）

[5] 審査結果：

締め切り後、内容を審査の上、発表可否の結果をお知らせします。なお、発表者には7月30日（木）（厳守）までに、予稿集原稿を提出していただく予定です。その際、発表申し込み時にお知らせいただいた題目や発表者の変更は受け付けられませんのでご注意ください。

注意事項： 上記原稿提出締め切りに遅れた場合は、発表申し込みを取り消しとさせていただきますので、ご注意ください。

[6] 企業展示：

今年は、多くの参加者との交流機会を目的に、多彩な企画を設定しております。具体的には、企業関係者によるショートプレゼンテーションの時間の設定や、産学連携セッションとジョイントした取り組み紹介などを計画しております。また、ブース展示もオープンスペースでのフリードリンクコーナーを活用して多くの方々と自由な雰囲気でのディスカッションしていただけるよう配慮いたしています。詳しくは大会事務局までお問い合わせください。

問い合わせ先：

大会事務局 09taikai@remedial.jp （発表申込先ではありません）

千歳科学技術大学 川西雪也・増子洋行

学会からのお知らせ：

1. 学会誌の原稿を募集しております
2. メディア教育開発センターの閉鎖に伴い、現在、学会の事務局を佐賀大学に移す準備をしています。